公開ワークショップ

近現代東アジアにおける
キリスト教社会主義思想の比較研究

主催： 立教大学文学部キリスト教学科
共催： 立教大学大学院キリスト教学研究科
日時： 2019 年 3 月 27 日（水）、15:00～17:30
場所： 池袋キャンパス　本館 1104 教室

研究発表 ①
梁慧氏（浙江大学副教授、リージェント・カレッジ中国キリスト教研究講座のディレクター）：
「中華人民共和国におけるキリスト教社会主義者たちの思想」

中華人民共和国におけるキリスト教社会主義者たちの受容というテーマはこれまで中国のキリスト教研究の領域で無視されてきた。本稿では、近代の重要な中国人キリスト教知識人たちの神学著作を検証し、反キリスト教運動以降の中国において西洋世界と日本から入ってきたキリスト教社会主義者たちの思想がいかに中国におけるキリスト教信仰の土着化に大きな影響を与えたかを描き出そうとする。さらに、彼らが提示した近代中国における「革命的キリスト教」という神学的構想について、キリスト教と帝国主義という課題への対処について、そしてキリスト教と社会主義あるいは共産主義との関係についても触れる。

研究発表 ②
ミラ・ゾンターク氏（立教大学文学部教授）：
「戦後日本（1945－1975）におけるキリスト教徒による社会主義受容の諸相」

西洋人に「社会主義的」と言われてきたアジアの近代以降の発展に注目して、様々な社会主義と様々なキリスト教との歴史的および思想的接点を追って、特に敗戦後 20 年間の日本では両者について主張されてきた親和・疎外論を GHQ 占領期における宗教政策、そして 1960 年代の学生紛争との関係において分析する。

討議
（本ワークショップは英語で行われる。）

問合せ先：
ミラ・ゾンターク（文学部教授）
msonntag@rikkyo.ac.jp
03-3985-4714